

文楽（人形浄瑠璃）

人形遣い



人形遣い

おも主遣い(出遣い)

人形の首と右手を遣い、人形遣いの中心となる。中でも、黒衣でなく頭巾をとって顔を出す“出遣い”となるには、20年以上の修行が必要といわれる。



うだけでなく、小道具の出し入れも担当。立役の場合は、人形の重さを引き受ける。



足遣い

人形の真後ろで足を遣う。

10~15年間の修行で、人形を遣う心得のすべてを学ぶ。



太夫(語り手)



三味線

下手 (しもて)

上手 (かみて)

御簾内

床

小幕

文楽の舞台

二の手摺

一の手摺

文楽廻し



上手（かみて）

御簾内

床

小幕

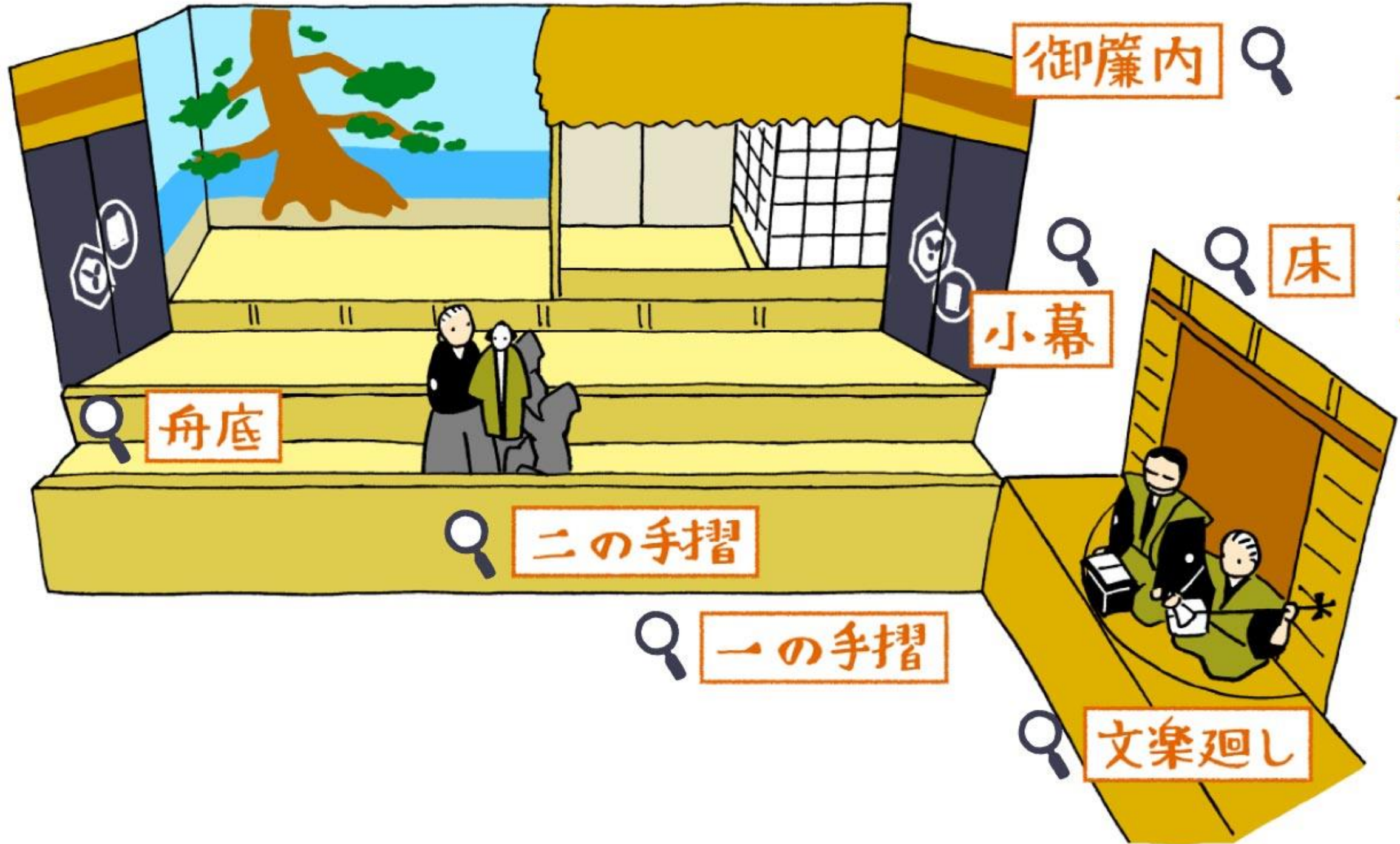
舟底

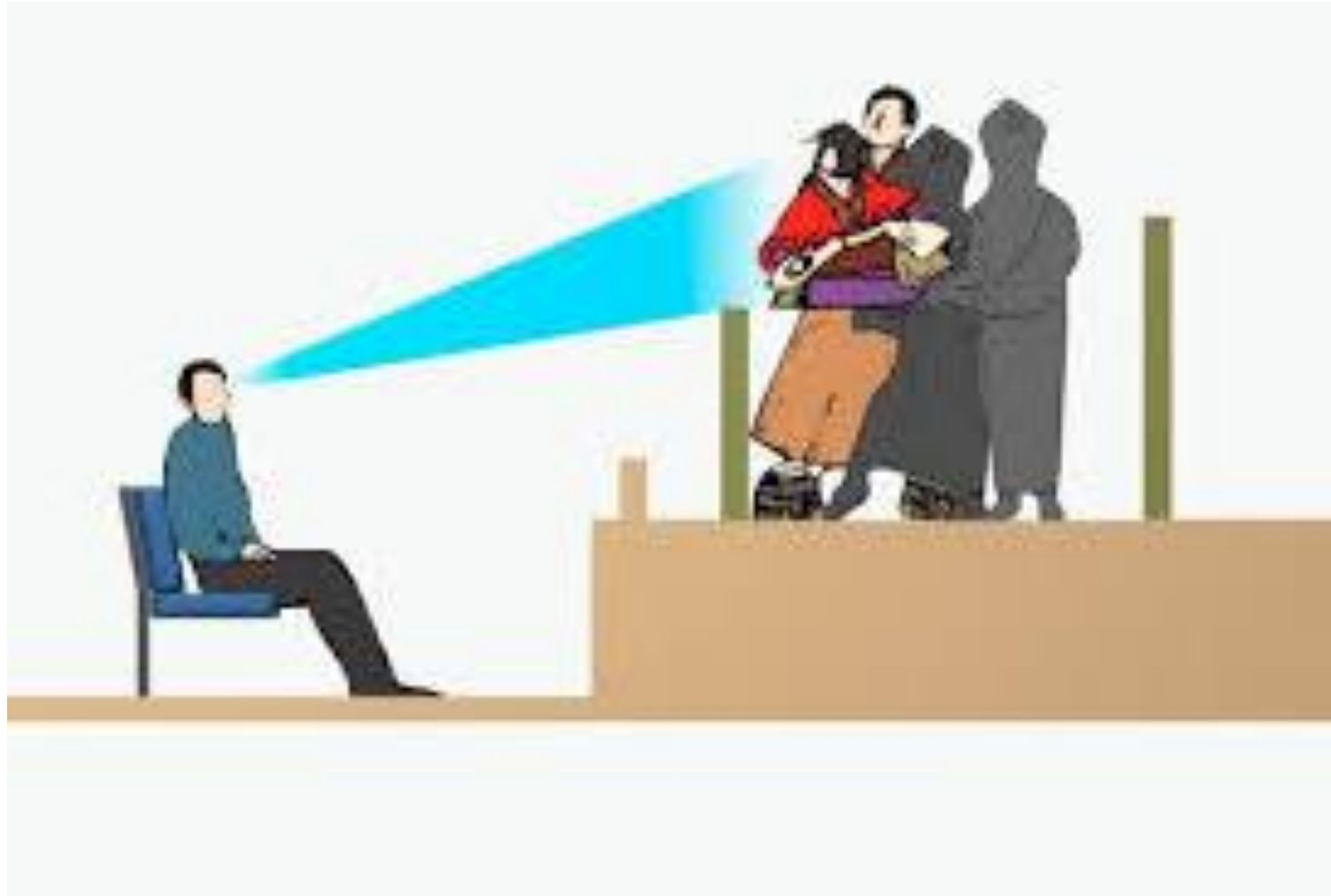
二の手摺

一の手摺

文楽廻し

下手（しもて）

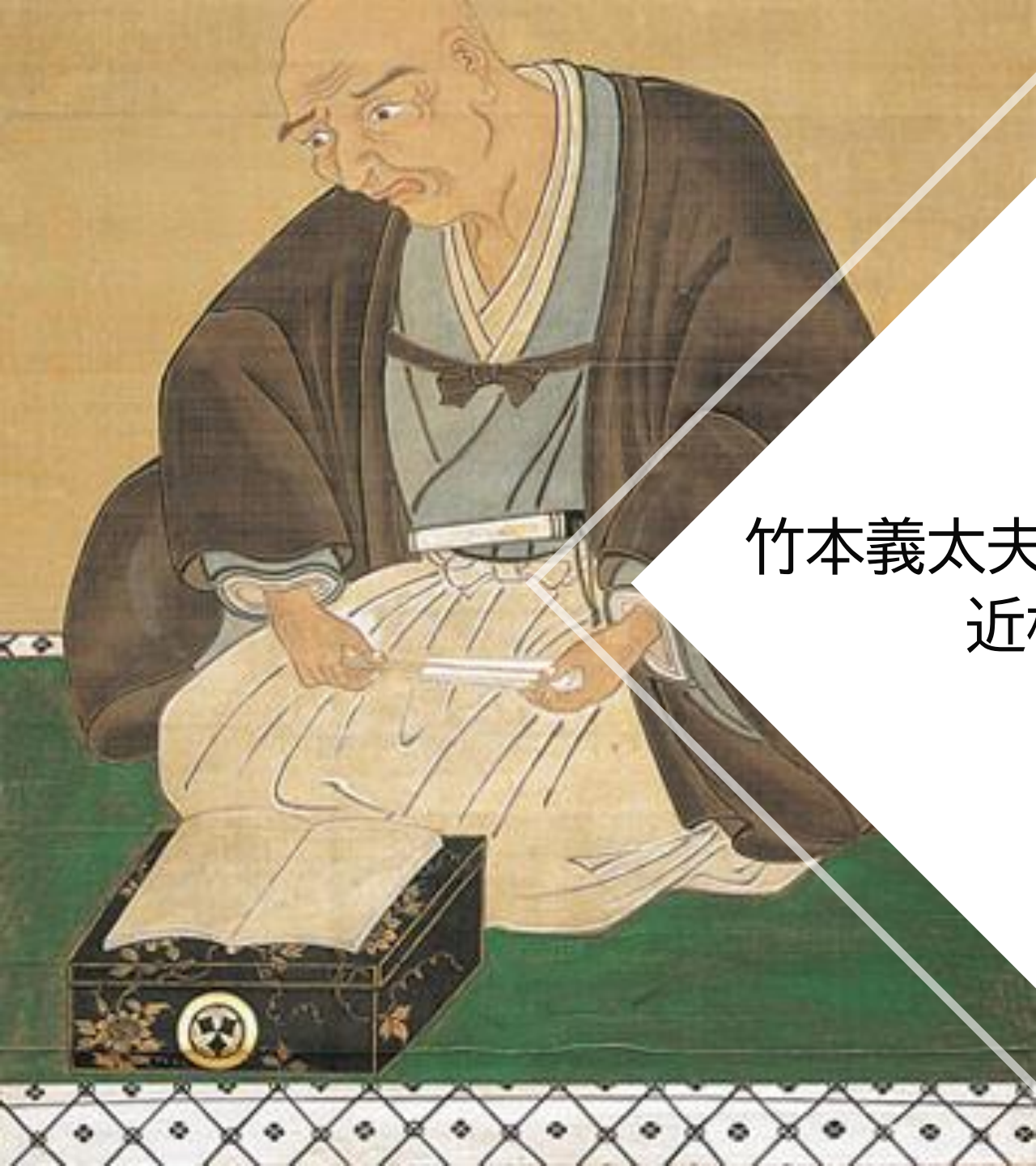




舞台の仕組み①
舟底



舞台の仕組み②
文楽廻し



竹本義太夫
近松門左衛門





義経千本桜 第2段

- ・渡海屋の段
 - ・大物浦の段
-